



## 夏の「見守りあいさつ大作戦」(7/10~14)

今回、境高校が一中校区の「夏の見守りあいさつ大作戦」に合わせて「あいさつ運動」をされました。期間中、豪雨による臨時休校もありましたが、生徒会執行部員が学校横の交差点に立ち、登校する生徒に声をかけました。

境高校CSは令和2年度に発足、地域と連携して学校教育を進めておられます。今回の連携は同じCSの縁で実現し、のぼりも3本立てて頂きました。土台のビニルパイプにはそれぞれ「見守りあいさつ大作戦」と手書きされていて、身の引き締まる思いでした。

このほか、地域各所でのぼりを立てて子どもたちに声をかけて下さる姿がありました。

これからも「地域みんなが顔なじみになって、一中校区の子どもたちを育てよう」をめあてに、粘り強く取り組んでいきましょう。



真剣さがここに！

## 3年ぶりに全校児童集会 (6/20,境小)

境小で久しぶりに全校児童集会が開かれました。3年ぶりの開催でしたが、子どもたちは今年できた児童会「イベント委員会」のリードで、ゲームなどを楽しみました。

全校児童集会は、学年の違う子どもたちがふれあい、個性を発揮したり互いのよさを見つけたりする大切な場面。今回は「コロナでできなかった体験をぜひ！」という先生方の思いを受けて、3月まで大山青年の家職員だった市教委生涯学習課の角康徳さんに伝え、イベント委員会の子どもたちに事前指導して頂きました。

「今はまだ不慣れですが、体験することで前進していきたいです」(担当：安達和哉先生)これからも応援していきます！



## 「願いを込めて」七夕飾りづくり(7/4,上道小)

特別支援学級の学習の一環として、七夕飾りづくりが行われました。この日の休憩時間は、地域ボランティアの足立のり子さんと松下眞一郎さんが下さったササが教室前廊下に立てられ、交流学級の子どもたちも来て「2.5m泳げるように」「みんなと仲良くできるように」と願い事を書いていました。ササは保育園にも届けられたそうです。

互いに認め合い共に生きていく子どもたちが育つことは一中校区みんなの願い。ササの願い事がかなうように「顔なじみ」になっていきたいですね。



## コミュニティ・スクールって何？①

皆さんの疑問にお答えします

### 🗣️「CSって何ですか？」

「学校運営協議会」(学運協)が置かれた学校を、コミュニティ・スクール(CS)と言います。学運協は校長の学校経営方針を承認し、学校運営に対する意見を教育委員会または校長に、教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べるすることができます。

### 🗣️「なぜCSが始まったのですか？」

社会の急激な変化に伴い、学校と地域が連携を密にして課題を解決する必要が叫ばれるようになり、平成29年法律で学運協の設置が努力義務となりました。複数校で密接な連携を図る必要がある場合(小中一貫教育など)は一緒に設置することもでき、境港市はこの方式です。

## 「裁縫の第一歩」でボランティア大活躍！

境小・上道小の5年家庭科「ソーイング・はじめの一步」で、ボランティアのべ約40名が活躍しました。学習のねらいは玉結び・玉止め・なみぬい・返しぬい等の技能を身につけること。初めて針と糸を持つ子が多く、正しく安全にできるよう目配りが必要で、皆さんの存在は頼もしい限りでした。「学習が進むにつれて、子どもたちから『楽しい』という声が出てきました。」(境小・森山章二先生)

ちなみに6/20上道小5年A組は児童21人に教師・ボランティア計5人で、大人一人あたり児童4.2人。一方、30年前筆者は一人で42人を指導したので、目配り度は今回の10分の1！ 申し訳ない限りです。

左 上道小5年A組(6/20)

右 境小5年竹組は地域1名

保護者4名が参加(6/26)



## 「一中校区タウン誌」を書く学習(7/5,一中2年)

「郷土のよさを伝えよう」という国語の学習がありました。一中校区のおすすめスポットを選び、タブレットで情報を集めて文章にまとめる学習で、選ばれたスポットには「隠れ家の喫茶店」「オーナーが子ども好きな駄菓子屋」と興味をそそるものも。

完成後はお店や公共施設に置いて多くの人に「地元の宝」を知ってもらうなんていかがでしょうか。



アドバイスを書いて交換



一中HP QRコード